

令和6年度大学地域連携活動支援事業 成果報告会
発表日：2025年2月4日

小さな拠点「里山キャンパス益子家」 プロジェクト

発表者：宇都宮大学農学部農業経済学科 西山研究室

鈴木美愉、岡澤薫平、猿渡あかり、白石樹理、須藤美佳、鶴田碧波、
星すみれ、若井田光(指導教員：西山未真)

1. 里山キャンパス益子家の概要

- ・ 研究対象である「農業と農村」をもっと身近に、具体的に理解するための拠点として開設
- ・ **アクションリサーチ**の現場としても活用

益子町大平地区の課題



- ・ 耕作放棄地の増加
- ・ 空き家の増加
- ・ 食文化の衰退
- ・ 地域外との関わりに不慣れ
- ・ 中途半端な田舎
- ・ 山の荒廃、竹藪の増加
- ・ 人と会わない

益子家 4 つのコンセプト

- ①持続可能な里山を実現できる場所
- ②やってみたいができる場所
- ③多様性が集う場所
- ④食と農が自分自身に結びつけられる場所



2.活動概要

概要・	2022年(1年目)	2023年(2年目)	2024年(3年目)
1.農地調査と棚田の再生	・ 農地台帳分析,T型点検 ・ 水路,畦づくり	・ ゆうだい21の栽培(農薬,肥料不使用)、販売 ・ 収穫祭	・ 新たな棚田に着手 ・ オーナー制の開始 ・ 地域で有機栽培PJ試行
2.古民家改修	・ 荷物だし,基礎の整備 ・ 屋根の補修	・ 下地フローリング貼り ・ 縁側,屋根の補修	・ 外壁補修、内装整備
3.竹林・山林整備	—	・ 森林活用計画(WS)	・ ワークショップの企画・運営 ・ 作業道の整備(WS) ・ 山取得に挑戦(クラウドファンディング)
4.食に関する情報収集	—	・ ローカルフードシステムの調査	・ 月1回の地域食堂開催
5.農村地域の手仕事の掘り起こし	・ 藍、綿の栽培(農薬,肥料不使用) ・ 綿繰り機の自動化 ・ マルシェ出店	・ 藍、綿の栽培(農,肥料不使用) ・ マルシェ出店	・ 綿の栽培(農薬、肥料不使用) ・ マルシェ出店

3.山の整備プロジェクトの背景・目的

・背景

クラウドファンディングで購入した山をどのようにプロジェクトに活用していくか指針を定める：あわせて農村関係人口を増やしたい

・目的

昨年度までの調査や現状把握からステップアップして、

プロジェクトを始動させること：

実践型にすることで多くの人を巻き込むきっかけづくりをする

企画、運営まで一貫して3年生で行う

・方法

とちぎユースサポーターズネットワークで地域づくりを手がけている
専門家岩井さんにご相談

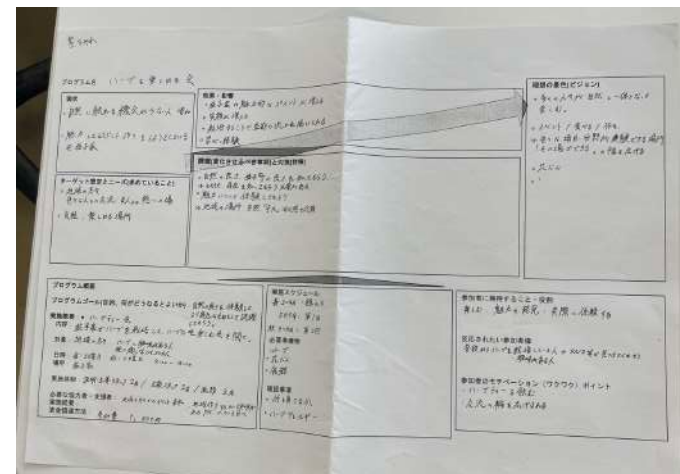
3.プロジェクトのテーマや内容の決定まで

2024.10.08：岩井さんから、企画・事例の考え方、アイデアと企画の考え方進め方、心構え、ボランティアでのコミュニケーション、共感や協働についてを学ぶ

2024.10.15：ゼミ生3年生で再度集まり、山をどうしたいか、当事者の意識をでアイデアを出す。それを基に1人1つ理想のビジョンをたて、それに向けた現状の確認や課題、仮プロジェクトの企画書を作成
→食べ物系、イベント系、ものづくり系など

2024.10.22：岩井さんに企画書を発表

やりたいことの達成のためには、最初に山の整備が共通の課題→山の整備WS開催を決定



プロジェクト：

「里山で最高の一杯のための里山づくり」 開催

山のWS開催に伴って、

『**最高の一杯**』

というテーマを設定

里山整備だけではなく、

自然の中での時間を一緒に
楽しむことに焦点をあてる

整備方法と最高の一杯の演出を考
える必要がある！



あしかもメディアより <https://ashikamo.media/>

私たちにできる事前準備

ワークショップの現地確認(2024.12.10)

- ワークショップの進め方
- 道具の使い方
- 安全上の注意点



NPOトチギ環境未来基地の
方に教えてもらう

- 当日のプログラムが円滑に進むように山の現状を確認



<山のWS 1日目：2024.12.22>

活動内容

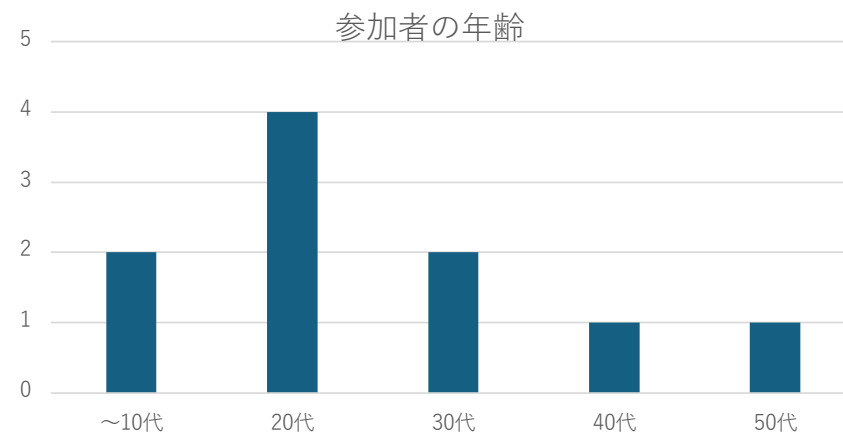
益子家の”山”(2ha)の整備

シノダケの刈取り：山の整備の第一歩
メイン広場として使用可能な場所作り

参加者

- ・ 人数 10名
- ・ 年齢構成：～10代：2名、20代：4名、30代：2名、40代：1名、50代：1名

居住地：宇都宮市、小山市、那珂川町、
那須塩原市、益子町、矢板市



<山のWS 1日目 2024.12.22>

お昼

ゆうだい21を使用したおにぎり、豚汁

最高の一杯

お茶（農林水産祭で受賞した高評価の緑茶）、
焼き芋（農場で生産されたさつまいも）

アンケートの内容・感想

・那珂川町出身 30代

参加前は1人参加だったこともあり一緒に作業をする
ことに緊張もありましたが、自然の中で自然と人との
つながりできていることを実感しました。

・宇都宮市出身 ~10代

自然のありがたみを知った、大学生と遊べて最高！



<山のWS 2日目 2025.1.12>

活動内容

- ・第1回に引き続き山の広場の整備（シノダケの刈取り）
- ・切ったシノダケを利用して風よけのシェルターづくり

参加者

- ・ 人数 15人（リピーター：8人）
- ・ 年齢 ～10代：2人 20代：7人 30代：4人
 40代：1人 50代：1人
- ・ 居住地 宇都宮市、大田原市、日光市、市貝町、
 那珂川町、益子町、鹿沼市、小山市



<山のWS 2日目 2025.1.12>

食事

ゆうだい21、お味噌汁、参加者の方の手作りの卵焼き

最高の一杯

お汁粉（地域の人からいただいた金時豆使用）、
コーヒー（バードフレンドリー）

参加者アンケート内容・感想

参加理由

- ・ 子供達に自然体験をさせられるから。
- ・ 第1回が楽しかったから。

感想

- ・ みんなでご飯を食べる楽しさを改めて実感。
- ・ 人が継続的に手を入れていくことの重要さや難しさを感じた。
- ・ 普段、白米を食べない子供がおかわりをした。
- ・ ただ整備するだけでなく、作業や食事を通して参加者同士で話をしてコミュニケーションが取れて良かった。
- ・ 最後にみんなで最高の一杯を囲むことで、一日の振り返りや自分の感じたことを共有できて良かった。



<プロジェクトを企画運営した3年生の感想>

- ・参加者の笑顔が溢れ、最高の一杯を楽しむことができた
- ・普段の生活では絶対出会えないような人たちとのつながりが生まれた
- ・成果が目に見えたことで実感が湧き、達成感を覚えた
- ・いい自然には、いい人が集まる
- ・段取りや流れが上手くいかない部分があった。
- ・どちらが主催者でどちらが参加者かわからない場面があった
- ・より継続的に益子家の活動に参加してもらえることが必要でこれから実践的な活動や魅力を伝えたい

<これから～参加者からの声をまとめて～>

●参加者から出されたアイデア

- ・ 星を見る会
- ・ 伐採した竹や篠をどうやって有効活用していくか？考えたい
- ・ 迷路づくり
- ・ 焼きマシュマロ
- ・ 里山プチマルシェ
- ・ 竹のライトアップ
- ・ 里山丸ごとシェアハウス
- ・ リバ邸のような場所 挑戦できる居場所づくり
- ・ ヤギ牧場



これからの益子家に求められること・・・

食×地域、食×人をベースにしたみんなの拠点づくり
自然の中での時間を楽しめるようなサポート体制

5.里山キャンパス益子家が目指すもの

資源を活用し、住み続けられる地域づくりへ

拠点づくり

○空き家の再生と活用

- ・数十年空き家になっていた建物を約2年かけて改修

→里山ゼミ室として活用
アクションリサーチの拠点に

仕事づくり

○棚田再生

- ・集落で「ゆうだい21」の有機栽培プロジェクト化
- ・約1トンのコメの販売計画

資源活用で 関係人口増加

○山の所有、整備、活用

- ・みんなの山の実態が作られつつある
- ・やってみたいができる山



ご清聴ありがとうございました。

